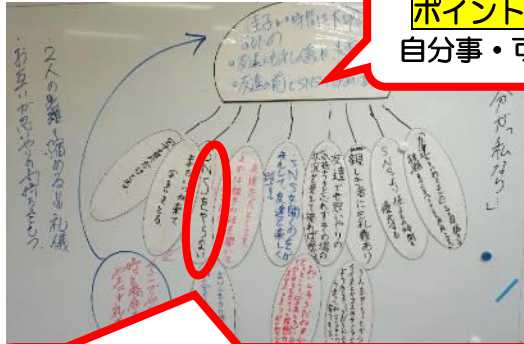


●指導の実際

1 授業の実際

【ホワイトボード】



ポイント①②
自分事・可視化

【板書】



ポイント①課題設定

よりよい人間関係（コミュニケーション）を築くために必要な礼儀とはどんなものだろう？

ポイント③補助発問

「スマホを使うことは駄目なことなのか？」

「いや、そういうわけではない。友達とせっかく来ているのに、違うことをするなんて相手に失礼。相手と一緒にいるときは、自分のやりたいことをするのではなく、一緒にできることをやる。」

時と場を考えてやればいい。」

※情報モラルとの付き合い方

ポイント①②自分事・可視化

生徒一人が代表として出て、黒板にハートの位置を示した。その際、ハートが佳子に寄っていたので理由を確認したところ、「SNSもやっているけど、佳子と仲良くやっているつもりだった。SNSを使用している自分が楽しいから、佳子も楽しいと思っていた。」という考えだった。可視化することで、生徒の考えを全体で共有することができた。

※SNSの扱い方

【生徒の振り返り】

時・場などをよく考えて一緒にいる人も自分も良い気持ちになれるようにする。自分にも佳子さんとか「私」みたいなことがあったから気を付けたいです。

「目上の方だから」などではなく、タイトルにもあるように、時と場も考えて「いつでも どこでも 誰にでも」使える礼儀が必要なんだと思いました。これからは、相手の気持ちを考えながら相手が嫌な思いをしないようにしたいです。

【成果〇と課題▼】

- 導入で自由な雰囲気をつくることにより、発言しやすくなると共に、映像による資料提示をしたり、「自分なら…」と考えさせる発問をしたりすることによって、導入から終末まで、自分と教材をつなげ、自分事として考えさせることができた。
- 「もし自分が『私』ならどうしますか？」という問いについて、班で意見を交流した。SNSを使用することについて、場面を想像しながら、自分事として考えさせることができた。
- 「もし自分が『私』ならどうしますか？」と問うと「SNSをやらない」という生徒の考えが出てきた。そこで「SNSをすることは駄目なことなのですか？」と切り返すことで「駄目ではない」「そこでやらない」「時と場合を考えてやる」など、SNSを含めた礼儀について考えさせることができた。
- 授業の振り返りでは、多くの生徒が「相手に対する思いやりが大切」「時と場に応じた行動をする」等の記述をしており、内容項目B(7)「礼儀」に関連した記述が見られたことから、情報モラルに触れながらも、学習のねらいに即した授業であったと考えられる。
- ▼SNS等に関する生徒の実態を十分に把握する必要がある。事前アンケートや保護者の意見等を踏まえた指導を行い、保護者や地域への情報発信を通して情報モラルについて働き掛けていく。
- ▼学習を通して、生徒が自発的に活動する場を位置付ける。